

令和2年度 農山漁村振興交付金(農福連携対策) 事業実施主体 評価一覧

●農福連携対策(普及啓発等推進対策事業を除く)

8件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階 □					評価	評価コメント
				H30	R1	R2	R3	R4		
中国四国	岡山県	吉備中央町	有限会社吉備高原ファーム	● ★	●	■			A	目標はコロナ関係で本事業で建設した建物を使用した人口交流はできなかった。しかし、それ以外は概ね目標値を達成した。障害者就労について、今年度は体制移行により年度末までに就労人数の若干の減少があると予測するが、来年度以降は定員を倍にして、就労人数を増加させていく予定である。
中国四国	徳島県	石井町	社会福祉法人カリヨン	★	●	■			A	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、そばの店舗販売の休業やデリバリー販売機会が減少するなど、生産活動収入が大幅に減少したことにより、目標達成は出来なかった。就労に関しては、新規利用者を含め5名となっている。
中国四国	高知県	南国市	一般社団法人エンジェルガーデン南国	● ★	●	■			A	支援機関の支援を受けながら、コロナ自粛規制が解除される間を縫って、販売担当の責任者が展示会への出店や百貨店での試飲会の実施を行い、また、個別営業を行うことによって売り上げ増につなげたかったが、最終的にはコロナ影響で売り上げ高については減収であった。試飲会、イベント参加がコロナの影響で中止になったものほとんどであったこともあり、交流人数の達成はできなかった。雇用については5名予定が11名で6人の増加。就労人員13名現在21名で達成。
中国四国	岡山県	矢掛町	社会福祉法人あすなろ園	/	● ★	●	□		A	圃場を2枚から4枚に増やしたことで農作物の種類や生産量を増やすことで就労人数を増やしたり農協の直売所やスーパーなどにも販売交渉を重ねるなど順調に推移していると考え。

令和2年度 農山漁村振興交付金(農福連携対策)
事業実施主体 評価一覧

●農福連携対策(普及啓発等推進対策事業を除く)

8件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階 <input type="checkbox"/>					評価	評価コメント
				H30	R1	R2	R3	R4		
中国四国	徳島県	阿波市	特定非営利活動法人山の薬剤師たち		● ★	●	□		A	先進地の視察、専門家の招聘により作業技術の習得、向上、現行チェックを行い、また運営責任者(砂栽培士2級)の指導により播種作業から収穫作業に至るまで一連の作業が可能なレベルまで能力が付き、障がい者のみで管理する自立型農園の実現に近づいている。コロナの影響により見学会の開催はできなかったが、鳴門市、小松島市議会議員等見学に多くの方が来られ、当農園の取り組みを広報する。売上、交流人口に関してはコロナウイルスの影響によりイベント参加等への参加ができなく、また飲食店等への営業ができなかった。このため栽培した野菜は地域の人に配ったり取り組みの広報重視に切り替え、また障がい者の自立型農園を実現すべく、播種から収穫まで障がい者により行ったため、交流人口、農福連携の普及は実現したが、売り上げについては目標の15%にとどまる。これがなければ70パーセントは見込めた。
中国四国	香川県	高松市	社会福祉法人洋々会		● ★	●	□		A	コロナ禍の影響を受けて、一部目標は未達成であるものの、灌漑用の水道の設置を自己負担とするなど障がい者雇用のための環境整備を行いつつ、福祉農園における野菜栽培については研修等でジョブコーチやコーディネーターの育成につなげている。
中国四国	高知県	高知市	株式会社いわた農園		● ★	●	□		B	コロナ禍の影響もあって、新たな取り組みを行わず、前年度に整備した野菜洗浄機を利用して、新生姜を3,168kgを洗浄するなど、農福連携の推進を図っているが、新たな取り組みは行わなかったことから、目標が未達成である。

令和2年度 農山漁村振興交付金(農福連携対策) 事業実施主体 評価一覧

●農福連携対策(普及啓発等推進対策事業を除く)

8件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階 <input type="checkbox"/>					評価	評価コメント
				H30	R1	R2	R3	R4		
中国四国	高知県	四万十町	有限会社西宮組	/	/	●	○	□	B	農福連携の作業内容の指導強化や関係機関との連携などは実施できているものの、コロナ禍によって取組は一部中止になるなど予定どおりの実施は困難だった。 また、事業の実施体制は関係団体が連携を取っているものの、資料の作成に時間を要するなど今後、農福連携を進めていく上で、事務局機能の強化が必要となっている。

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ソフト対策 ○●交付対象年度(計画) ●●交付対象年度(実施済) □●目標年度(計画) ■●目標年度(実施済)
ハード対策 ☆●交付対象年度(計画) ★●交付対象年度(実施済) □●目標年度(計画) ■●目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分: A●優良 B●良好 C●低調

【令和2年度農山漁村振興交付金(農福連携対策)の評価概要】

農福連携対策

- ・令和2年度の事業評価では、平成30年度採択3団体及び平成31年度採択4団体、令和2年度採択1団体の合計8団体を評価した。
- ・事業評価の結果、実施計画に基づく取組が概ね実施され、成果も十分上がっていると認められる総合評価「A」が6団体で、取組がある程度実施され、成果もある程度上がっていると認められる総合評価「B」が2団体。
- ・本交付金によって農福連携の推進に一定の成果が出ていると認められるが、一部コロナの影響により事業実施ができていないものがあり、コロナ禍の対応の検討を進める必要がある。

【令和3年度評価委員会の議事概要】

- 1 日時: 令和3年9月17日(金) 13:30~15:30
- 2 場所: 中国四国農政局会議室(10階)
- 3 概要: 令和3年度評価対象団体の評価について
令和2年度農福連携対策を実施した6団体について、評価案等に関して、了解を得た。
- 4 主な意見:
 - ・障がい者に対して自分で行った仕事の成果を、対価(目で見える形)として示してあげることで、更なる意欲向上(やる気)に繋がるのでは。
 - ・農業側が福祉と連携して良かったという話はあるが、福祉側からも農業と連携して良かったという情報をもっと出して欲しい。
 - ・障がい者は健常者に比べると10倍の労力が必要だが、農作業には単純な作業もありルーティンを覚えてくれれば作業はできる。
 - ・経済的な観点も大事だが、健常者が障がい者を支える形が農福の取組が増えていくと良い。